



★6月の在館日★

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

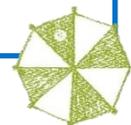
黄色は司書がいます



図書館利用案内



利用日時 平日 12:00~17:00
貸出冊数 1人3冊
貸出期間 2週間
 ※開館予定は変更することがあります。
 ※水曜、図書委員さんがいる時は昼休みのみの開館です。
 ※返却期限を守りましょう。
 ※学級文庫は貸出していません。読んだら元に戻しましょう。



東京は毎年約 110 日ほど雨が降るそうです。3 日に一度降っている計算です。今年はどうでしょうか。天気予報でよく聞く「アメダス」。この「アメ」は「雨」ではなく「地域気象観測網」『Automated Meteorological Data Acquisition System』を略して『AMeDAS』となったそうです。アメダスの名付け親である木村耕三氏が、全国に観測網を作ることを提案し 1974 年 11 月に正式運用が始まりました。降水量や風向き、日照などのデータが 1 時間ごとに届くようになり、天気予報の質が高まっていきました。1983 年に、NHK の全国放送で初めてアナウンサーが「アメダスによると…」と発言し、視聴者から『「雨だす」とは何事ですか。「雨です」ときちんと言いなさい』と苦情がきたとか…。さて、**てるてる坊主を軒下につるすとき顔は描かない**って知っていましたか？

なぜ描かないのか気になった人は

『雑学事典』 049 さ

という本を探してみてください。



図書館の秘密 第2回

Q 本はどのようにならんでいますか？

A 日本の図書館は「**日本十進分類法**」という決まりにそって並べられている図書館がほとんどです。

背ラベルに「913」とあれば9類の文学にあります。

「210」なら2類の歴史・地理の棚にあると見当が付きまします。ラベル2段目のひらがなに「な」とあれば「夏目漱石」「長野まゆみ」等と同じ並びです。そのあとは、国語辞書と同じで「なか…」「なき…」「なさ…」「なつ…」など、あいうえお順で並んでいます。本棚では本は左から順番に並んでいます。これさえ覚えておけば本を探すときスムーズです。

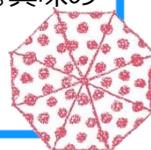


5月の来館者数・貸出(延べ)
(統計日数 15日 開館日数 20日)
来館者数 149名 貸出数 128冊

お知らせ

アンケート用紙をまだ出していない人は図書館まで持って来てください。アンケートに記入がある人へのみの購入の可否をお知らせします。

POPの作成を行っています。興味のある人はぜひ作りに来てください。



5・6月展示



5月は「広辞苑の日」にちなみ、言葉の本を展示しました。日本で最初の辞書のことや、「右」「動物園」は各辞書によってどう表現されているかなどを展示しました。6月は「メディアリテラシー」展示です。インターネットやSNSの使い方、ゲーム障害や怒りをコントロールするためのアンガーマネジメントについて掲示しました。図書館入口には「空を見上げて」をテーマに「空」が表紙の本やタイトルに「空」とつくものを集めました。



今月のおすすめ本1 「舟を編む」

三浦しをん 2011 光文社 913

辞書編集部に異動した馬締は「大渡海」の編纂を始める。個性的すぎる仲間たち、問題山積みの編集部、ままならぬ恋…。愛すべき**変人**たちが恋に仕事に右往左往。「大渡海」は編み上がるのか？一部学級文庫にあります。



今月のおすすめ本2 「小さな恋のうた」

平田研也 2019 講談社 913

亮多、慎司、航太郎、大輝は、高校の軽音楽部に所属し、学校中を熱く盛り上げる人気バンド。4人は音楽で固く結ばれていた。だが夢が現実になるあと一歩で彼らの絆は引き裂かれてしまう。公共図書館で借りてください。(購入予定です)

「空を見上げて」

「青」が悲しみを表すのはどうしてでしょう？空が表紙やタイトルの本も、人の死を扱った作品が多い気がします。ここで紹介した作品は決して暗い話ではなく、どれも前向きな結末です。

『この青い空で君をつつもう』瀬名秀明 2016 双葉社 913

早季子宛に届いた一枚のはがき。それは折り紙のように生き物の形に折られていた。亡くなった同級生の和志が、何かを伝えようとしているのか。思い出さえも、残せなかったあの日。力強い希望があふれる、青春ラブストーリー。



『青空のむこう』アレックスシアラー 2002 求龍堂 933

「僕がいなくなったらきっと後悔するぞ」「いなくなったらせいせいする」姉弟ゲンカでヒートアップして、言っただけで口走り相手を傷つけてしまった。でもその一言が最後の言葉になったとしたら。突然訪れた家族の死と後悔。互いを思い合う気持ちに胸を打たれます。

『空へ』いとうみく 2014 小峰書店 913

父親の突然の死により、小さなアパートでの三人暮らしがはじまった。家族で支え合って暮らしていくも、自分一人で出来ることはあまりに少ないと実感する。ある時主人公は、父親が好きだった祭りで神輿のかつぎ手になる。いろいろな人と関りによって少しずつ成長していく主人公を描いた作品。

